

## おわりに

兵庫ワイルドライフモノグラフ 15号では「分布拡大するイノシシの管理に向けた研究手法の開発と豚熱対策の現状」をテーマに、これまでの行政施策と研究成果の振り返りを行いました。イノシシを章として取り上げた過去のモノグラフはいくつかありますが、特集としては6号(2014年)「兵庫県におけるニホンイノシシの管理の現状と課題」、8号(2016年)「国際シンポジウム報告書なぜイノシシは都市に出没するのか?」となり、そこから7年ぶりのイノシシの特集となります。過去のモノグラフでは、イノシシの基礎的な生態である年齢・産し数・行動などの分析(6号)や、国際シンポジウム記録として国内外の都市部のイノシシ問題について(8号)を取り上げ、雑食性かつ高い繁殖力を持つことで、まとまった森林以外にも生息できるイノシシの管理について紹介しました。

本15号では、イノシシの農業被害(5章)や都市出没への対応(9章)といった以前から問題であった事例を取り上げつつ、今まで手法が限られていた個体数推定法

(2, 3, 4章)や、2018年に日本で再確認された豚熱について(6, 7章)、島嶼の分布拡大(8章)といったここ数年で顕在化した問題や発展した技術の紹介を盛り込みました。これまでは農業被害の軽減のための対策論に主眼が置かれる傾向にあったイノシシですが、都市部や島嶼への分布拡大、豚熱の感染拡大などに対応するために広域なスケールでの個体数密度の把握や、それに基づく管理が今後重要になります。今回紹介した推定手法はまだ発展途上ですが、捕獲・痕跡指標による相対値やカメラによる絶対値の推定は、兵庫県以外でも適用可能な手法が多く是非参考にしていただきたいと思います。なお、個体数推定手法については、兵庫県立大学が主導した環境研究総合推進費(4G-2001 イノシシの個体数密度およびCSF感染状況の簡易モニタリング手法の開発)の成果報告集と詳細な調査マニュアルも公開していますので合わせて参考にしてください。

(<https://sites.google.com/view/hyogowildlife/suishin4g2001>)

最後になりましたが、査読責任者の森光主任研究員をはじめ論文査読に協力いただいた方々、調査や分析の基盤となった過去からのデータの蓄積にご尽力いただいた方々、兵庫県のイノシシの保護管理に尽力くださった全ての方々にこの場を借りて感謝したいと思います。

兵庫ワイルドライフモノグラフ 編集委員会

責任編集者 栗山 武夫